

## 令和5年度障がい者スポーツ教室第2回意見交換会次第 議事要旨

開催日時 令和5年10月25日（水） 午後1時30分～

開催場所 中央公民館 第5研修室

参加団体 一般社団法人あきる野総合スポーツクラブ、あきる野市社会福祉協議会、  
スポーツ推進委員、東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部パラスポーツ課、  
東京都障害者スポーツ協会、スポーツ推進課、障がい者支援課

- 1 開 会 スポーツ推進係長
- 2 あいさつ スポーツ推進係長
- 3 内 容 障がい者スポーツ教室課題及び今後に向けての改善について
- 4 議 題

### ○（障がい者スポーツ教室の実施状況の報告）

（事務局） 別紙をご覧ください。はじめに障がい者スポーツ教室の今年度の実施状況をご報告いたします。体験教室につきましては、9月末までに4回実施し、68人の参加者となっております。次にボッチャ教室については5回実施し、77人の参加者となっております。最後にわくわくパークにつきましては、4回実施し、64人の参加者にお越しいただきました。上半期だけで比べますと、コロナ禍前の参加者数に戻りつつあり、年々上昇しています。理由としては、定期的に教室が開催できていることと、都立学校施設へのチラシ配布の周知によるものです。引き続き都立学校施設へのチラシの配布は、行っていきますが、さらに、小・中学校や福祉施設等にもご協力の依頼を検討しておりますので、引き続きよろしくお願いたします。実施状況につきましては以上となりますが、補足やご意見等何かございますでしょうか。

（委員） 参加者については、今年度は都立学校施設にチラシを一人ひとり個別に配付をしたため、生徒の参加者がいました。ただ、年度初めに申し込みがあった4家庭ほどが固定で参加しており、後期もさらにチラシを配付をしたが、新たなメンバーの増加にはつながりませんでした。皆様それぞれの生活パターンや習慣がある中で、年度初めに教室を見つけて、その方々が固定で来ているという感じです。あと、祝日開催となると放課後デイサービスの方が事業所単位で来てくれていますので、祝日開催の日は参加者が増えて、特に子どもの参加が増えるというような顔ぶれになっています。また、コロナ禍前は来ていたが、コロナをきっかけに来なくなった人は、それ以来、来ないという人が多いです。コロナの期間に来なくなり、別の習慣ができたのではないかと思います。色々と生活の変化もあり、体調の変化ということもあると思います。体調の変化で来れなくなったという方も数名聞いております。

（事務局） ありがとうございます。実際に、私は5月の開催のときに現場に行き、見た中で、参加されている方は楽しそうにしているという印象は受けましたが、その

方々以外にはどう周知したら良いと思いますか。

(委員) 参加している方で、「楽しいな」「ここで体動かすの気持ちいいな」「こういう環境で運動させたいな」と思っている方が、リピーターとして来ていることが多いです。そこに新しい人をどう増やすかというのは、周知ということもあるのと、曜日の工夫も必要ではないかと思います。毎回日曜日となると、日曜日は都合が悪いという人の参加は難しいし、現状は日曜日または祝日開催なので土曜日開催等も織り交ぜながら開催したら良いと思っています。

(事務局) 例えば土曜日の開催とする場合、スタッフ的には今までどおりできますか。

(委員) 難しいです。土曜日となると私自身が難しいです。私も土曜日は固定の教室があるので、どう調整するか、あるいは私抜きで、できるものを実施しながら考えていかなければと思っています。

(事務局) スポーツ推進委員の方々を組織として今年度から加入している中で、スポーツ推進委員と委託業者のどちらにも所属されている方が、スポーツ推進委員の中にいますので、その方々というところではどうでしょうか。

(委員) 個人が過ごす時間帯となるので、土日となるとスポーツ推進委員を受け持っている人は、スポーツの好きな人が多いので、自分のしているテニス、野球、バスケットを今度は自分が楽しむという方がいるので、月一回この日だけ手伝うというのは、依頼があれば調整できる人もいますが、毎週土曜日のこの時間帯でお願いというと、なかなか確保する人数というのが、難しいと思います。今お手伝いできている3名は、リズムができていますので、お手伝いができていますが、新たにお手伝いとなると、ある程度事前に連絡して、この日であればピンポイントではお手伝いできると思いますが、固定となるとなかなか難しいです。

(委員) 例えば、スポーツ推進委員の事業の1つに障がい者スポーツ教室というのを加えていただいて、そこに皆さん交代で担当していただくことが可能ですか。

(委員) 先日ボッチャのお手伝いをして、皆様ボッチャの審判はできるようになり、そういった事業の依頼がスポーツ推進課にすれば、できるという人は前よりは増えたと思います。

(委員) 教室の内容もボッチャだけではなく、わくわくはレクリエーション的な内容のため、日頃皆様が体を動かしている内容のアレンジで、開催できるかと思います。

(委員) トランポリンみたいなものですか。

(委員) そうです。ゲーム感覚のレクリエーションです。高齢者施設でやるようなレクリエーションも参考にしているので、こういった運営がスポーツ推進委員にお任せできると、土曜日開催も可能であると思います。

(事務局) スポーツ推進委員の事業というのが、土曜日開催というのがほとんどですので、日曜日ということであれば、個々のスポーツの時間もあると思いますが、参加するというのは可能だと思います。色々調整は必要にはなると思います。

(委員) ペタンクは月1回開催ですか。

(委員) 月1回第2土曜日に開催しています。

(委員) そこにスポーツ推進委員は交代で担当されていますか。

(委員) そうです。3人で担当を決めて割り当てています。

(委員) 例えば、教室を開くとなると当日その場を見守るだけではなくて、企画も考える必要があるのですが、どう担うかを考えなければいけないです。

(委員) 時間的にどのくらい制限されますか。半日ですか。

(委員) 教室自体は1時間30分で、準備を含めて約2時間です。

- (委員) それくらいでしたらできます。なかなか我々も障がい者スポーツを推進しなければいけないというのは頭にありますが、障がい者と接することが少なく、普段の生活ではなかなか接する機会がないです。
- (委員) 私も最初に障がい者スポーツ事業を実施するとなったとき、多摩総合スポーツセンターに相談に行きましたが、慣れだと思います。体を動かすことを分かっている方々ということと、地域の人に体を動かすことを勧めるということのために、働いている方々ということなので、是非、企画・運営の面でご協力いただけるとすごく心強いです。
- (委員) お手伝いできることがあれば、我々もやりたいです。
- (事務局) その教室に携わる場合に、障がい者の指導資格は必要ですか。スポーツ推進委員の中には積極的に取られている方もいますが、初級や中級など色々ありますが、その辺はどうでしょうか。
- (委員) 慣れだと言いましたが、講座に参加することで体系的に集中的にまとめて学べるという利点があると思います。慣れただと月1回現場を重ねるだけで時間がかかるとは思います。学んでおくことに利点はあると思います。資格があるからといって、指導者の中での優劣は全く無いと思いますが、学ぶことの利点はあると思います。
- (事務局) 今現状で参加されている方が3名いるので、特に気にしなくても良さそうですね。
- (委員) 教室に関わっている方がスポーツ推進委員以外にもおりますが、当日お手伝いすることならできるという方は結構います。しかしながら企画から一緒に考えてくださる人が欲しいです。一人で全部当日までやるというのが、厳しいので、その担い手が増えると良いなと思います。先日私がコロナになったときに教室ができなかったのも、そういったことを避けるためにも、企画・運営・準備ができる人がもう少しいると良いと思います。そうすると開催の幅も広がるのではないのでしょうか。
- (委員) 我々スポーツ推進委員も障がい者スポーツに携わるということで、直近の講習会を受けてくださいとか、中級の講習会が開催されますという情報はもらえますが、4回コースで2週連続土日続けて参加しなければならず、欠席があると取得できず、また改めて4回コースを受けなければいけないというので、日程的に取るのが難しく、私も去年初級を取りました。中級となるとさらに日程的にも場所的にも厳しい制限があって、行事をやっている中では厳しいと思います。また、場所がもっと近くだと行きやすいと思います。そうすれば資格面では取りやすいかと思います。初級を受けていて思ったことは、健常者同士が話すときに、固有名詞や場所を言っても、障がいのある方はわからないから、指さす、ゆっくり話す、そういった配慮が必要だということをやりました。わかりやすい言葉で言うということができていれば、なんとなくできるのではないかと思います。男の人だと男の人を毛嫌いするような、男の子に対して攻撃的なことを言われるとそれ以上近づきにくいと言いますか、ベテランの人とは対応が違うと感じることはあります。その辺が中級になってくるのかと思います。
- (委員) 指導者の資格ではなくて、仕事を休み、4日連続で行かなければいけないという困難があると思うので、指導者の資格ではなくても、障がい者スポーツに関わる人のための、講座を年に1回コンスタントに、開けるといいとは思っていましたが、コロナにより1回しか実施していません。

- (委員) 情報となりますが、様々な人が集まって話し合うという協議体を、調布市でももっていて、スポーツ推進委員が今年度から独自の事業を始めました。ボッチャなどそういう種目というものではなくて、スポーツ推進委員がやっているレクリエーションを並べてみて、障がい者施設の方や、障害者スポーツ協会に相談して種目を決めていった。接するのが難しいというのが受け入れ側としてはあると思いますが、放課後デイのスタッフの方が連れてきたり、施設も家族が連れてくるということで多くの人が集まったという事業があるため、参考までにチラシを回すのでご覧ください。
- (委員) ミニゲーム等のレクリエーションです。
- (委員) 他の自治体でも同じような事業があり、そこは施設単位での参加なので、始める前にその施設の施設長から、配慮が必要な事項の説明をして共有していただくことで、ボランティアもわかりやすいということがありました。福祉施設の方にもご協力はいただけるのかと思います。
- (委員) 障がい者関係だとスポーツではなくて、レクリエーション関係の方が良さそうです。スポーツとなるとパラスポーツのようになってしまうのでレクリエーション感覚でできるような体を動かす、指先を動かすという方がいいですね。
- (委員) 例えば、体験教室だと種目体験ということで、Tボール、フライングディスク、今年はありませんが、ウォーキングサッカー、ボクシングのミット打ちを予定しており、レクリエーションばかりではなく、本物に近いことも喜んでもらえるのです。野球のバットを持ったり、グローブを持ったり、野球さながらにやりますが、ルールを少しわかりやすいようにアレンジすることで参加できる人や楽しめる人が増えるのかと思っています。野球をそのまま野球でやるのではなくて、野球だけど少しわかりやすくする工夫で楽しめるのかという感じです。
- (委員) レクリエーションだと、アレンジできそうです。
- (委員) こちらもそこが楽しいので。
- (委員) 風船野球だと飛ばないし、危なくないのでいいと思います。
- (委員) パラスポーツや障がい者スポーツをやろうとご相談いただく団体も、スポーツの種目は何をすればいいですかという種目のご相談をいただきますが、日頃活動をされている、身近なスポーツを障害のある人も一緒に楽しむためにはどうやったらできるかということで、少しエッセンスを加えるだけでプログラムというのは増えてくると思います。今、皆様のお話を聞いていて、スポーツ推進委員が日頃やられている得意スポーツをすると広がるのではないかと思います。あと企画や当日どうやって運営したら良いかイメージが湧かないということがあれば、地域サポート事業という取組があるので一緒に取り組みますし、スポーツ推進委員のような運営側の皆様に、研修というと少しハードルが高くなりますが、初級講習会の時のように、どうやったら対応ができるかというところのポイントをお伝えするというのもできますので、少しでもイメージがありましたら是非、土曜日開催というお話から始まったと思うのですが、曜日の設定というところは教室を発展させていく上で、ひとつ大きな一歩と聞いていて思いました。あと通年となるとハードルが一気に高くなってしまいますので、運営側もできないとなってしまうかもしれませんが、試験的に1回やってみる、そしたら次は何ができそうかと少しずつ進めていけると良いかと思いました。
- (委員) 簡単なようでも、上を見てといっても上が分からない人がいるから指さして、天を指さすとか、教えると言っても身振り手振りで言葉だけだと上手くいかない

ということがすごく参考になりました。

(委員) 先ほど、資格があった方が良いのかとありましたが、資格は確かにあった方がノウハウとかポイントを押さえた上で、関わり合えるので、より良いサポートができますが、障がいのある方と関わると一人ひとり特性が様々なので、その目の前にいる人がどうやったらできるか、どうやったらわかってもらえるか、先に進めるかというところで、一人ひとりの関わりだと思うので、私たちも長靴のラグビーに行かせていただきましたが、教室を拝見して関わるのが本当に上手だと思いました。

(事務局) 実際ご覧になっていただいて、課題等、発展していくためのアドバイスはありますか。

(委員) 教室のプログラム自体は、ラグビーの講師の方が、日頃の活動の中で展開されているものをしていたので、内容自体は全く無いですけれども、ただ、私たちが企画した回は、福祉施設がいたり、小さいお子さんがいたり、あきる野市の参加者の方が多い回だったので、より多くの人を巻き込んでいくためには、福祉の障がい当事者の方が集まるコミュニティにお知らせをしたり、あとは、あきる野市のブロック会議の時にメールやTwitterなど別の媒体も活用していく予定でしたので、そのようなより多くの方に周知していくということもひとつ大事なのかと思います。教室の内容自体は講師の方もいたので、ボランティアを含め、むしろこちらが勉強させていただきました。ちなみに曜日の変更については、平日は難しいですか。というのも社会福祉協議会が平日であれば、施設単位で来られる話を連盟から聞くので、試験的にお客様がいることを前提に進められるというやりやすさは、他の自治体を見ているとあると思います。

(委員) 平日は、不可能ではないが、ただ施設によっても1日の流れが違います。例えば木曜日の午後と設定したところで、そこに来れる施設は1つや2つ、それでも施設単位で来ると結構な人数になると思います。また、曜日を固定してしまうとその施設しか来られなくなるため、逆に要望があれば、こちらから出張で行く方が現実的な気はします。それと出張となると1事業所単位になってしまうから、毎月違う曜日、違う時間で設定してエントリー制でやるとか。例えば福祉事業所は運動教室、レクリエーション教室を望んでいるのか、事業所の活動として必要であれば、平日に設定して、エントリー制にするのはどうですか。それぞれの事業所で工夫されていて、毎日お散歩していて、それで十分というところもあると思うので、ニーズがあればです。

(委員) 実際にどの程度足りているのかというのは、把握しかねるところですが、例えば、お話にあったように事業所単位ということになると、効率が良くない、そのルールを特定しなければならないということがどうしても出てくるので、イメージとしては、例えば社会福祉協議会の場合は、「ふれあいセンター」を借りているので、その「ふれあいホール」にいくつかの事業所が集まってイベントを平日にできるのであれば、有効に時間と場所が使えるのかと思います。不特定多数の人というよりは、ある程度地域的な事業所に絞り込んでやっていくことが可能なのかと思います。

(委員) 試しに、イベント的に立ち会えることになって、そこに集まれる事業所が来て、そこに直接ニーズを聞いてみてとするのか。

(委員) 1つは事業所として必ずそれをやらなければいけないのか、そういう機会があるのであれば参加したいというところがあるのが前提です。

- (委員) 今「ふれあいセンター」の中にある1つの事業所のスポーツ教室は、月1回行っておりますが、講師を呼んでやっているところもあります。五日市の「希望の家」にも指導員が出向いてやっていると聞いたことがあります。
- (委員) おそらく「ふれあいホール」の広さだと、社会福祉協議会で管轄している2つの施設で、いっぱいになってしまうというのが現実だと思います。
- (委員) 今、身体を動かすとなるとその1つの事業所だけでもいっぱいです。
- (委員) 動くとなると結構狭いです。
- (委員) 場所が必要です。
- (委員) ただ、広ければ場所を秋川体育館にしても良いと思います。
- (事務局) 普段そういう事業所同士の交流はあるのですか。
- (委員) 市内の事業所はわかりませんが、市町村単位で社会福祉協議会では西多摩ブロックというのがあり、事業としては体育に限らずやっているところもあります。
- (委員) 年に1回運動会もやっています。コロナの前とかは多摩の障がい者スポーツセンターの方が来て、楽しそうにやっているのを見ました。そのときは皆バスで集まっていました。それは西多摩ブロックですか。
- (委員) 当時、私もいなかったもので、西多摩ブロックか確認してみないとわからないのです。
- (委員) それのあきる野版を行っているのか。
- (委員) 放課後デイサービスと直接関わりがあったりするのですか。
- (委員) 過去に参加があった方との関わりがあります。なぜ事業所単位で参加してくれたかという、フィレを通じてメール配信で、案内の通知をしているが、その中に今いる事業所の中で、それを見て参加してくれた事業所が、3つあり、その方とは関わりがあります。
- (委員) 今、福祉施設や作業所をイメージしていたが、放課後デイサービスのように平日の夕方やそういう時間に設定すれば来やすいところがあるのではないかと思います。施設の方々に、先ほどニーズのお話をしていたが、時間帯やプログラムについての意見を聞いてみたいです。社会福祉協議会からか市の障がい者支援課が把握できたりするのか、調査はしているのですか。
- (事務局) 事業所で把握はしていません。東京都のホームページから確認出来ます。通知関係はフィレから流れていることと、ただ部会に分かれており、事業所が全部参加するわけではないが、自立支援の関係で各部会があるので、部会ごとの集まりはできるため、子どもを迎えに行き、その場所で集まって会議をしています。そこで投げかけをしたり、話をするとは思いますが、そこには、職員が派遣されているため話を把握できると思います。
- (委員) クラス部会のメンバーとなり、なかなか平日の時間帯で、参加が難しい、そういうところでニーズや議題が毎回あります。深刻な内容だが、その場で、スポーツに特化した話題は投げかけにくく、機会があれば具体的にできればと思います。
- (委員) もしクラス部会で話せるなら聞いてみるのも良いかと思います。シビアな話のため、なかなかスポーツのレクリエーションという、自主活動になるかもしれないですが。
- (事務局) 実施状況の報告だけでなく課題や改善というところで、実際に障がい者の方が取り組みやすい種目というのはあるのでしょうか。ボッチャというのはパラスポーツ競技ですが、そのほかにもニュースポーツも今は数多く種類もあり、あまり幅広くはできないと思うが、どうなのでしょう。

- (委員) 種目という、フライングディスクなどルールを緩和して行うと思います。逆に言えば、ルールを緩和すれば何でもできるということになるため、一概に何ができるかということはいづらと思います。ボッチャにしても、付き添いがいないとできない子もいますので、難しいです。
- (委員) 正式なルールには、ランプのセッティングなど指示してはいけませんから。
- (委員) 障がい者スポーツ教室のプログラムは様々な種目、選択肢がすごく多いので、先日、区市町村の担当者会議でも、種目の質問が多く上がったが、モルックやネクストボッチャは何かという話題が多くて、他市の場合Tボール、グラウンドゴルフなど何か特別なスポーツよりも一般の方がイメージできるようなスポーツを、用具やルールをアレンジして行っているという印象が多いです。
- (委員) 1つあげるなら、ダンスはすごく良いです。道具がいらない、体を動かせばいいだけで、講師が振り付けを型にやりますが、気にしなくていいので、ダンスはすごくいいなと思っており、ダンスの教室を作ろうかと思うくらいいいと思っています。
- (委員) 5月の体験教室のときは、プログラムにダンスがあったと思うのですが、参加者の方が多いですか。
- (委員) 5月は少なかったです。周知が間に合わなかったです。ただし、2月にもう一回やりますが、そのときは、5月よりはもっと増えると思います。
- (委員) ダンスとリズム体操は何か大きい違いはありますか。
- (委員) ダンスは、曲を設定してそれに合わせて振り付けをするが、リズム体操は曲に合わせて行う、基本的にエクササイズです。
- (委員) 音楽があると皆で盛り上がり雰囲気も良いと思いますし、肢体不自由の方も椅子に座って一緒にご自身のペースでできたりするので、非常に、福祉事業所でも取入れているところが多いです。
- (委員) 道具を使うと複雑になってしまうので、道具を使わないダンスはとても楽しめるみたいです。
- (事務局) そう考えるとあまり複雑なルールのものというのは適さないです。
- (委員) それをどこまでどう緩和するか、原型をなしていないということになります。
- (事務局) ルール関係なく、楽しめればという要素があれば、参加者の方も喜んで参加してくれます。
- (委員) 逆に、指導員の中でもルールにこだわってしまう人がいます。そういう問題は出てきます。
- (委員) 目で見てわかることが良いと思います。フライングディスクで的を落とす輪っかを通すなど輪投げみたいに入っただけで喜ぶから。
- (委員) ボッチャでもジャックに近いか遠いかの距離でやるよりは、フラフープを置いてこの中にたくさん入った方が勝ちという方がわかりやすく、楽しめるし、満足度が高いということはあると思います。それを重ねて本当のボッチャのルールを理解してくれるようになればいいと思います。
- (事務局) 実際に新しい種目を始めると道具が高いのでなかなか踏み込めないところはあります。
- (委員) 障がい者スポーツに限らず、スポーツの用具は高いです。
- (委員) 会議でも、用具は高いし、障害者スポーツ協会で貸しているものもありますが、そこまで借りに行くのが大変という話もあり、他市町村では、自分たちでボッチャの球を新聞紙を丸めて作ったという話もあり、本当に工夫次第でできることも

あるのかと思います。

(委員) 用具を買う場合、補助金を使って用具を買うが、高齢者の方で、ボッチャが広がりつつあり、皆様高齢者の活動のための補助金を使って買っています。

(事務局) ボッチャ大会も自治会の参加が増えてきていて、練習場所も模索しているようで、空いている施設を使ったり、会館で気軽にできるというところで、ボッチャが広まってきているような感じはしました。

(委員) シニアで広まると、皆様コミュニティに活動しているから、すぐに広まります。

(事務局) この前のボッチャ大会でも、同じ自治会から3チーム出ていることもありました。また、市内の都立学校施設にチラシ、周知をしていますが、教室の開催が日曜日ですが、以前は市内の都立学校施設でも教室を実施し、そのときは参加者の方がいたのですか。

(委員) 場所が市内の都立学校施設だったときは結構いました。それはただ、東京都の事業も同じ場所でやっていました。東京都の事業については、東京都から個別で直接チラシを配っていたので、それを見て東京都の事業に参加する人がいて、その教室の中で、案内していました。

(事務局) 平日だと送迎が必要になってくるかと思いますが、お休みの日だと、父兄が送るといえることですか。

(委員) 保護者の方が、一緒に来てました。

(事務局) 固定の場所でずっと行うことも良いのかもしれないですが、転々とすることで来れなかった方が、来られるかと思います。

(委員) 個人の意見としては、市内の都立学校施設もすごく設備が整っており、人が来やすいということで、すごく良いですが、地域の体育館でやっているということの意味は大きいとされていて、一般の人がたくさん出入りしている中に、障がい者の人も普通に来て運動しているという場面を、お互いが目に触れるということの意味は大きいとされているため、秋川体育館でやっていることは良いと思っています。

(委員) 委託業者に、障がい者スポーツの全部を担ってもらうのは、負担というか、大変だと思っています。ここの施設管理の指定管理者は障がい者スポーツ教室のような教室をやっていたりするのですか。

(委員) 教室とかはないと思います。

(委員) 一般の人対象のテニスやダンス、ヨガと、障がい者向けというものはないと思います。

(事務局) プールはあります。

(委員) 五日市ファインプラザの指定管理者は、やっています。

(委員) 他の自治体で、あきる野市と同じ事業者が指定管理をしているスポーツ施設では、パラスポーツ教室を市からの委託ではありますが、月1回とか2回定期的に開催していて、指定管理者自体が障がい者対応に力を入れていると聞いたので、こちらではどうなのかというのが気になりました。

(委員) 指定管理者の指導員の中に、あきる野市民だけど障がい当事者の家族の方がいます。指定管理者の教室には障がい者対象の教室というのはないですが、第2トレーニング室では障がい者の方も来ていて、トレーナーはそういう対応をしています。

(委員) どうしても1から決めて作ると大変だし、契約の関係もあるため、既にやっているもので少しでも障がいのある方が関わりやすくあればいいと思います。



- (事務局) あきる野市は3施設全部同じ指定管理者となっており、おそらく近隣自治体の体育館の職員も掛け持ちで入っていたりしているのです。市からの直接の委託で、現状やっているプログラムも色々あるので、なかなかそこに組み入れていくというのは、すぐには難しいかとは思いますが、相談することはできるので、聞いてみたいと思います。
- (事務局) 来年度の実施に向けて、現状今年度どおりに行き、できるところから改善していくというところですか。
- (委員) 市の事業としてスポーツ推進委員が関わるが増えていくことはいいことではないかと思えます。そこはスポーツ推進委員の中で、協議していくところだと思います。
- (事務局) 年間のスポーツ推進委員の活動の事業の中に組み込んで、定例会で議題に挙げ、その場で色々意見が出るとは思いますが、毎月ではなく、事業が比較的空いている時期はおそらく可能ではないかと思えます。
- (委員) やり方は色々できると思うので、そのやり方については、協議して色々やっていけばいいと思うので、スポーツ推進委員として関わっていくかどうかを協議していただけたらいいかと思えます。
- (事務局) 他に何か意見はありますか。よろしいでしょうか。では今議題のところで全部一括して報告と課題と改善というところのお話をいただきまして、次はその他というところを設けておりますけれども、何か今の障がい者スポーツ教室に関することでも良いですが、各事業所からお知らせや連絡事項等があればいただければと思います。東京都の方からありますか。
- (委員) 前回の意見交換会で質問のあった施設の利用者の障害種別の人数ですが、令和4年度の東京都多摩障害者スポーツセンターについて、視覚障害者が1,535人、聴覚が1,319人、肢体が11,884人、内部が611人、知的が7,370人、精神が3,150人という状況で、肢体の人の利用は少ないと思いましたが、センターになると肢体が多かったというご報告です。
- (委員) 補足させていただくと、延べ人数になるので例えば1の方がトレ室とプールと体育館を利用すると3となります。
- (委員) 安心して使いやすい環境もあってということだと思います。どこに働きかければいっちゃうのか。
- (委員) 体育館で防災のイベントをやっていたときに、聴覚障害者用に手話のできる通訳のできる人が2人いましたが、ずっと座りっぱなしで誰も来なかったとか、聴覚障害の人は意外と見た目で見えないし、今コミュニケーションツールがついているスマホがあるので、我々健常者と同じように情報交換できるような感じになっています。
- (委員) 地域自立支援協議会とかに、ろうの方の団体はいっちゃうのですか。
- (委員) 団体は特にあきる野市はなくて、手話の関係はないです。ただ利用者はここで増えてきているので、派遣はここで増えているというか、1団体が病院に行く関係で増えているのですが、あとは定期的に必要と思わなければ、声をかけないかと思えますので、自主的に声をかけるということもあると思うのですが、出向いていないだろうと思えます。団体はいないので、把握はしていません。現状今日は普通に申請で行っているというお話だったので、個人は定期的に見ます。
- (事務局) 東京都全体で、他にも実際に協議体の取組を実施されているところもあるかと思うのですが、同じように抱えている課題や共通認識というか担当者会議とかそ

ういう中で得られるのですか。

(委員) そのような会を設けているところは、その都度振り返りを開催しているのですが、運営されている方が分析をされたり、解決策がわからないままになってきているというのはあると思います。共通している内容としてはリピーターが多くて、来る人が固定化しているとか、内容的にマンネリ可が進んでいるという話は聞きます。

(委員) 種目の話で、取り組みやすい種目もそうですが、どういう種目が人気かという話もあります。障害者スポーツ協会からは何かありますか。

(委員) こういうネットワークの会議を設けて、担当者と共有する中では、種目や携わってくれる人のマンパワーが大きいです。人の部分というのも継続的に関わってくださる方たちがいれば、その運営する側としても、サポートが広がっていくと感じております。

(事務局) そういった情報は参考にできるかと思います。また、そういう情報をいただきたいと思います。

(委員) 委託事業者が選んでいる種目は、種目で選ぶというよりは、指導者の人で選ぶということが大きいです。ある程度障がい者に理解のある指導者を選んでいるということが大きいです。また、マンネリ化ということですが、参加者に関しては知的障がい者の方が多く、ある程度繰り返しが必要であり、以前に体験したことの方が安心して参加できるということですので、マンネリ化はそんなに悪いことではなく、むしろ、知的の方は、特に自閉症の方は、イメージできる方が、安心して、楽しいということのようなので、マンネリ化はそんなに悪いことではないです。

(事務局) 他にはありますか。では障がい者スポーツ教室意見交換会第2回というところで、後半も引き続き教室を実施していただきますが、改善点を市としても取入れて、改善できるところは改善していきたいと思います。次の意見交換会は次年度になってしまいますが、良い方向にいくように皆様にご協力いただきながら運営していければと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

## 5 その他